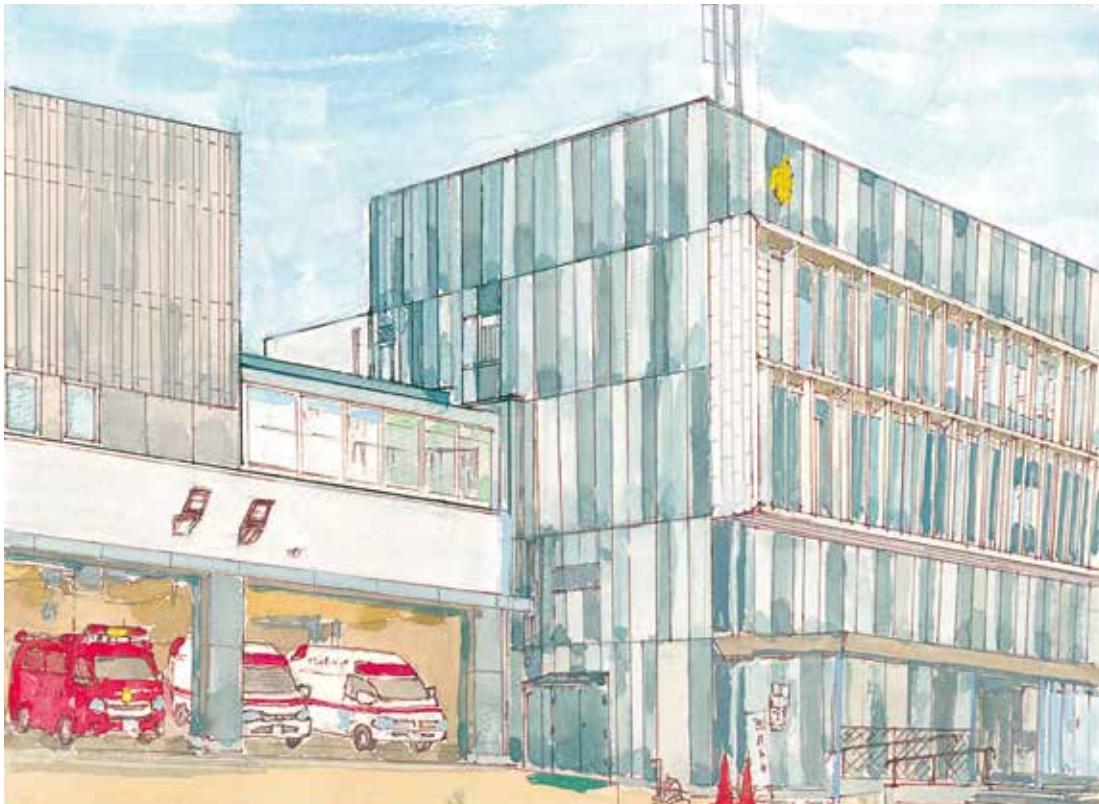


きずな



発行：観音寺市民生委員児童委員協議会 会長 高橋 勝久 住所：観音寺市坂本町一丁目1番6号



最近、自治会の加入率が減少している地区が増え、コミュニティーが崩壊しつつある所が増加しているのではないか、といふ声をよく聞きます。

自治会に加入して、自治会費などを納めて何のメリットがあるのだろう。地域の人達とつながりを持つて、一緒になって地域の行事などに参加しなくても困ることは何もない。葬儀などでも、隣近所の「講中」などに助けてもらわなくて、葬祭会館で、親戚中心で行えるので問題ない。このように考える人達が増え、地域内の人達が集まつて会話をしたり、交流をする場がほとんどない状況になつてゐる地区が増えています。このように、コミュニティー内の人間關係がますます希薄になり、社会から孤立化する人が生じやすい環境になりつつあると思われます。

このような状況の中で、私たち民生委員・児童委員に求められる役割がしだいに多様化し、増加しています。

ひとり暮らし老人の実態調査をしていて、驚く場合がありま

地域の人達との『つながり』を求めて

観音寺市民生委員児童委員協議会

会長 高橋 勝久

す。「緊急時の連絡先」をお尋ねすると、「適当な人は一人もいないし、これから頼めるような人も誰もいない」と言われました。身内の方、親戚の方とも、永年交流はなく、ご近所や職場内でも、緊急の連絡先としてお願いできるような人は誰もいないとのことでした。このように孤立している方は、将来的に生きづらいことが出てきたときにどうするのでしょうか。本当に困つて相談する所がない時に、相談を持ち掛けてくれるようつながりを持てたらと思っているところです。

あと三か月程で、民生委員・児童委員の一斉改選になります。数期二十年余りの方から、一期3年の方まで、活動の期間に長短はあります。が、委員の皆様、長年の活動ほんとうにお疲れさまでした。

今期で退任される方もかなりおられると思いますが、委員をご退任後も、「助け上手」、「助けられ上手」なコミュニティーの一員として生活していただけますことをお願い申し上げまして、ごあいさつをいたします。

地域のつながり



トルストイの長編小説『アンナ・カレーニナ』の有名な書き出しへ、次のようにある。

「幸福な家庭はすべて互いに似かよつたものであり、不幸な家庭はどこもその不幸のおもむきが異なつてゐるものである」

4月16日熊本地震の際、熊本市消防局の指令管制室は、約5分間119番の出動要請に対応できなくなりました。この日の受理件数は普段の12倍超の1727件ありました。指令管制室は、通報を受理すると「指令管制システム」を使って、消防署に出動指令を出します。ところが激震でパソコン端末18台の全てが倒れたり、電源プラグが外れたりしたためです。受理した1727件の内、出動指令を出したのは450件でした。普段の出動要請には原則全対応ですが、当時は端末トラブルに加え通報も殺到し、人命に関わるものをお優先したためです。

こうした状況のときに、いかに身を守るのか。専門家は「大規模災害の時は行政が全て対応できるわけで



地域の人達に熊本災害の募金を呼びかけました

『自助・共助』の環境づくりがとても大切だと思います。

民生委員の活動を通じて、困っている人やそれに様相の異なつた生活の問題、地域の課題等に遭遇します。関係機関や地域の方々と連携をとりながら、対応に努めたいと思っています。

そのためには日頃から地域のつながりを強めておくことが、防災にもつながっていく」と指摘しています。大規模災害では、消防の能力の限界を超えてしまうこともあります。

災害時に隣近所で協力することで、そのたまには日頃から地域のつながりを強めておくことが、防災にもつながっていく」と指摘しています。大

2%で、残り98%は自力で助けられたとか近所の人達によつて助けられたという調査結果がある。大事なことは、

早いもので、主任児童委員をお引き受けして二期目が過ぎようとしております。

当初は、経験も浅い若輩者の身で何ができるのだろうか不安で一杯でした。6年目を迎えた今でもやはり「何ができるのだろう」という思いは続いております。

私自身も子育て中ということもあり、学校行事や地域の行事には子どもの母親と主任児童委員という立場を兼ねて参加してきました。息子が学校へ通つてることで、地域の子どもさんの様子や人数を把握することができ、保護者の方とお話しする機会を沢山いただいてきました。

大抵は世間話で終わってしまうのですが、中には同じ年頃の子どもを持つ母親として、困つてていることや悩んでいることを打ち明けてくれるケースもありました。その時感じたのは、主任児童委員の存在を知らない方が多く、お母さん達は一人で悩みを抱えているということです。

最近、学校へ行けないお子さんがいるとの情報が何件か入ってきます。お母さんに声を掛けるべきかどうか、どこまで踏み込んでいいのか、正直いつもそこで止まってしまいます。

主任児童委員の活動について



子ども達の健全育成を願つて
世代間でスポーツを楽しみました

近年では、核家族で親御さんが共働きの家庭が増えてきています。子ども達の置かれる環境が変わっています。そんな中、家族以外でも、子どもたちのことを見守ってくれる、親御さんのことも見守つてくれている存在が各地域にあれば、親御さんはどんなに安心するでしょうか。

今まで以上に地域で子どもたちや親御さんを見守つていけるような環境づくりが必要になつてくるかと思ひます。少子化ともいわれる中、地域全体で子どもたちを育てていける

よう微力ですが一員として頑張りました

二期9年を想う



9年前の初夏のこと、自治会長より民生委員にと懇願されたが、他から転居してきた私に務まる仕事ではない、と固辞したものの、温かくお付き合いをして下さる地域へ、私のお返しが出来る仕事かも知れないと思い直し、民生委員を24年務められた地域の長老に相談にあがりました。「是非にも受けなさい、但し一期や二期では仕事は出来ん、せめて三期9年は務めること」との返事をした。その足で、自治会長に受諾の報告に。その時の自治会長の喜びようは、今でも忘れられません。

さて、その後が大変でした。主任児童委員1名を除く7名の民生委員と主任児童委員が全て新任。最年長の民生委員が地区会長、副会长はその次の私…。第一回の定例会は、市民児協からの打ち出しに対し、どうのように対処し実行するのか、先輩主任児童委員に教えていただきながら、無事終えたことを今でも懐かしく思い出します。



子ども達と一緒にゲームをし、民生委員も童心にかえり楽しみました。

施設訪問では元気な笑顔にお会いできた方、ベッドで寝たきりの方、さまざまなお年寄りにお会いしますが、次にお会いする時にも話しができるように、といつも願います。

最後に樂しかった思い出は、全国町大間町の民生委員の厳しい自然環境の中での活動報告に感動しました。分科会では、マグロの

等、多岐にわたります。
また、いきいきサロンでは高齢のご夫婦、一人暮らしのおじいさんやおばあさん、家庭訪問の時には見られなかつた明るい笑い声：にホッとすることもあります。

民生委員・児童委員の活動について



雨の日でしたが校区の子ども達と一緒に危険箇所を点検しながら下校しました。

民生委員を拝命し3年の月日が過ぎようとしています。現在私の担当地域は、6自治会約180世帯です。私自身それまで社会福祉、ボランティア活動とは、まったく無縁の生活の中で民生委員の責務に対し、戸惑いと不安の中、一人暮らしの高齢者の安否確認、施設訪問、いきいきサロン等の中で、いかにうまくコミュニケーションが取れるか自問自答の連続でした。そのような中、さる新聞のコラムの中で「聞」という字は、「門」と「耳」から成り立っています。それは、門の扉を開き、耳で相手に訪ねてゆく、という意味があるそうです。現在傾



地区あげての歩け歩け大会、大勢の人があつまつ三二四国を歩きました。

今後、少子高齢化、核家族化の大きなうなりの中、一人暮らしの高齢者が益々増えてくるように思います。高齢者の話を傾聴し、親身に相談相手となつて話し合い、楽しい社会生活を続けていけるよう、民生委員・児童委員として支援していきたいと思います。

聴ボランティアの組織があるので、相手の言葉を同じ目線で傾聴することによって、高齢者とわずかに距離が狭まつたように思います。特に施設訪問では、約35名の入所者と楽しいひとときを過ごし、最後にお別れの握手の際、手にこめられた力強さの中に小さな壁が取り除かれたように思います。傾聴することにつながり、信頼関係により生活のサポート役になることができるようになります。

地域の方々との日々を振り返りみて

私達の世代は、子どもに面倒を見てもうのは難しい世代であることを認識する必要があると思います。お年寄りが多く、若い人、子どもが少ないので、なるべく若い人に負担をかけないように老後を元気に生きるために自立したいと願っています。

私が参加させていたいいるいきいきサロンでは、高齢者が多いのですが、何ごとも関心があり興味を示してくださいます。生きがいのある生活を送るためのサロンにはねばいいな、と全員の意見を聞きます。一部をご紹介しますと、大声で歌いながら手遊びをしたり、大型紙芝居を観て笑つたりします。健康な脳を保つため食生活の大切さを学んだり、クラフト作りに精を出して完成した時の喜びを味わっています。

また、ストレス解消のマッサージ指導を受け、血流を良くして元気になり、健康寿命が少し伸びた気持ちになっています。時には、手作りのウエルカムスイーツにほっこりと笑顔がこぼれます。

私は最近、残りの人生は一度きりだということを考えます。微々たることでも、人のために何かをさせてもらえるよう自分磨きができれば、

と思います。儒学者佐藤一斎は「老いて学べば死して朽ちず」と明言しています。元気に笑顔で暮らせる人が少しでも増えて、心身共に健康で集えるように努力したいと思っています。



プロを招いてうどん作りの手ほどきを受けました。



体験の後は自分たちの作ったうどんに舌鼓。微笑ましいものでした。

一軒目は、リストで初めて一人暮らしの申請がまだだつたと判つた方でした。訪問が遅くなつたことをお詫びしました。知り合いが少なく、慣れると大丈夫だけど、ご近所づきあいも苦手とのこと。「何かお手伝いすることはないですか」と尋ねても「自分のペースで今のところ何とかしているから」と、しつかりしたお答えでした。話しあつきましたが、その日は一時間弱で帰りました。町内のもうちの民生委員さんに情報共有のため訪問依頼をし、説明不足だった「きずなカード」の提出をしてもらいました。その後時々訪問。バイクでの買い物は減らし、宅配に切り替えて生活面を工夫されています。

もう一軒は、同居家族が数人いる方ですが、ブザーを押しても応答が

いたとき、お渡ししています。行政のリストにより、当日受け取りに来られなかつた方は、自宅へお届けします。そのうちの二軒についてお話しします。

毎年敬老お祝い金を公民館に来ていただき、お渡ししています。行政のリストにより、当日受け取りに来られなかつた方は、自宅へお届けします。そのうちの二軒についてお話しします。

敬老祝い金からのご縁



タ涼み会で子ども達と交流
ヨーヨーつりやくじ引き大人気です。

その後、「私も何度かの声かけてやつと渡すことができた。家のうちにはいろいろあるからね。あなたが何度も通つてもタイミングが難しかったのでは」と連絡がありました。私は十分な見守りができるかもしれませんのが、サポートしていただき本当にありがとうございます。



一步前進

知人から民生委員・児童委員と一緒にやらないか、と声をかけてもらって、何となく引き受けたことになりました。

さあ、それからが大変で、毎月の定例会や保育所、小・中学校の入学式、卒業式などの行事への参加などで、戸惑いながらも、ほかの民生委員・児童委員の人たちと協力しあいながら、日々活動しています。嬉しかったことは子どもたちの発表を見に行ったことです。少人数ながら一生懸命に練習して発表している子どもたちの姿や、それを見ている地域の人たちの笑顔がとっても嬉しそうで、楽しそうで、私自身がすごく幸せな気分になりました。

そのほか、敬老会の手伝いやいろいろな行事に参加することで、人と人のつながりの大切さや、話すことの重要性を学んだような気がします。

民生委員・児童委員の活動をしていくことで、多くの人の輪が広がり、一步一歩進んでこられたと思います。

これから先も子どもたちや地域の人たちが、笑顔で過ごしていくように、民生委員・児童委員を中心となって見守っていきたいと思います。



高齢化が一段と進む現代、日本各地で独居高齢者が自宅で衰弱していたなどの話題をよく耳にするようになりました。私自身、普段何気なく過ごしていましたが、民生委員として活動を始めたからというもの、救急車のサイレンが聞こえる度に、どちらの方かと耳を傾け行方を見つめるようになりました。週に一度の安否確認には不安もありますが、「こんにちは、お変わりないですか」と訪問したとき、前回と変わらないお顔を見るとほつとします。

しかし、新规の高齢者世帯が発生し、実態調査で初めて訪問したとき、お話を伺おうとしても「民生委員て何?名前とか家族のことなど聞いて

見守り活動について

どなんするん?」と言われる方もいます。実態調査について説明すると、「ふんふん」と言つて答えてくれる方もいますが、きつぱりと「必要なし」と言われる方、「誰かに相談します」という方などいろいろです。もし私が質問された時にはどう答えるだろうかな、と思いながら聞いていました。

実態調査で感じたことは、「お世話になります」と答えられる方には、施設に通所していたり、ヘルパーさんが訪問したりして民生委員の活動をよく理解されている方が多いようです。安否確認で訪問する際、あちこちでお会いする方から「あの人どうしよう?元気なん」と立ち話の中で聞こえてくるようなことは、ささいな情報ですが、それぞれの状況がよく伝わります。また、ご近所同士のお付き合いも見えてきます。

民生委員活動を通じて感じることは、隣組を利用して協力しあうことも十分できるのではないかということです。昔からの付き合いがあるのでは非そうできないなと思います。そのためにも、自治会役員と私たち民生委員との間に隙間をなくし、情報が伝わるように協力していくことが一層大切だと感じています。



中学校の登校時に挨拶運動、みなさん大きな声で挨拶してくれました。



話題提供: イエロー一隊 石川義行氏

四国地域福祉実践セミナー in高知に参加して

ご近所で困っていることは、自分たちの住む地域の問題と考え居場所づくりや生活支援など住民のチカラを活かした実践活動発表でした。生活困窮、引きこもり、障がい、子どもの貧困等といった問題に真っ正面から取り組む人達の発表は力強く説得力のあるものでした。民生委員・児童委員として地域のチカラを考える良い研修となりました。

高知市社協のキャラクター「ほおっちょけん」
情報キャッチの「アンテナ」「よく聞く鼻」「助け手、任せ手」を持つ犬



民生委員・
児童委員になつて

民生委員・児童委員を委嘱され、三年目を迎えていました。振り返ってみると、一年目は高齢者に寄り添い何か相談相手になれることや、お手伝いできることはないと意気込んでいましたが、私の担当地区ではあまり大きな問題もなく、みなさんが穏やかに暮らしている住みやすい地域で心が軽くなりました。

それから少し視点を変え、日々の生活の中でお会いしたり、いきいきサロンや給食サービス時に元気な様子を確認したりするなど、常にゆるやかな見守りを心がけています。最近のエピソードとして、ある独居世帯から不要品の整理業者への依頼とその際の立ち会い人になつて欲しいとの相談を受けました。

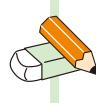
中で整理して、すぐ地域包括支援センターへつなぎました。その後、相談者の娘さん同席のもと話し合いが持たれ、解決でききたと報告を受け、ほつとしました。

また、私たち民生委員の役割は相談者側に立った代弁者だと考える
と、更に気持ちも軽くなるのではな
いかと思うこの頃です。

民生委員制度は、大正6年に岡山県で創設された「済世顧問制度」に始まり、平成29年には、制度創設100周年を迎えます。

大正6年	岡山県にて民生委員制度の源といわれる「済世顧問制度」が発足
大正7年	大阪府にて「方面委員規定」公布
昭和3年	「方面委員制度」が全府県に普及
昭和11年	11月13日方面委員令制定・公布 (方面委員制度が全国統一の制度となる)
昭和21年	民生委員令公布 (方面委員を民生委員と改称)
昭和22年	児童福祉法公布 (民生委員は児童委員に充てられる)
昭和23年	7月29日民生委員法制定・公布、即日施行、任期は3年 (民生委員令廃止)
昭和24年	民生委員は保護実施の補助機関から協力機関になる
昭和26年	民生委員信条制定
昭和30年	民生委員・児童委員協議会を組織
昭和35年	世帯更生資金貸付制度創設
昭和43年	(民生委員の低所得者対策活動の有用な資源となる) 民児協総務制度設置
昭和46年	「在宅ねたきり老人実態調査」を実施 (丈夫な子どもを育てる母親運動)
昭和52年	「民生委員・児童委員の日」制定⇒民生委員制度創設60周年を期して、全国民生委員児童委員協議会が制定。
平成6年	主任児童委員制度の創設
平成7年	新・民生委員信条策定 (この年の広島大会から)
平成13年	児童福祉法の一部改正 (主任児童委員の法定化)
平成18年	〈民生委員・児童委員発 災害時一人も見逃さない運動〉を全国展開
平成19年	民生委員制度創設90周年

編集後記



今年も無事に会報紙「きずな」第4

今回から立ち上げた市民生委員児童委員協議会広報研修部会で、各地区より選出された委員が内容を精査し、これまで以上に充実した会報紙が出来上がりました。投稿された委員の方々には感謝申し上げます。

なお、この会報紙が各機関、各地区民児協において、今後の活動に少しでもお役に立てればと願っております。

編集後記

編集後記
表紙題字
表紙スケッチ画
黒田富原田
俊郎一員康

編集後記
表紙題字
表紙スケル

三
画

高宣

黑田百

同原山

康一

員郎俊

今後の行事（28年度）